

◆書籍紹介◆

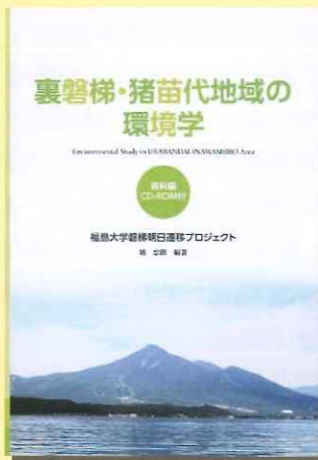
福島大学磐梯朝日遷移プロジェクト(塘 忠顕 編著)
裏磐梯・猪苗代地域の環境学
(福島民報社 2016年3月)

本書は、福島県中央部に位置する裏磐梯・猪苗代地域の環境調査結果を取りまとめたものである。2010年から2015年までの6年間、福島大学共生システム理工学類のメンバーが中心となって実施された研究が収録されている。それぞれの成果は時間軸で整理されており、古環境・古生態の解析から始まり、現状と実態の把握、自然環境・生物多様性の将来変化へとつながっている。

あとがきで述べられている通り、本書は裏磐梯・猪苗代地域を「俯瞰」するものである。これは、前述の異なる時間軸で解析することを意味するほか、生態・地質・化学・水文といった異なる分野の手法を用いて同地域を解析するという意味も含んでのことであろう。その点で、福島県の環境を包括的に理解するために欠かせない一冊といえる。

本書は、理系の読者であれば読み解くことができる内容となっており、まずは自身の専門に近い分野から読み進めるのがよいと思う。そこから少しずつ関連分野の成果へと広げていくことで、読者自身の「裏磐梯・猪苗代学」を構築することができるはずである。研究経験が豊富な方に対しては、自身の専門とは異なる分野では同じ地域に対してどのようにしてアプローチするのか、その方法を知ることができる。新しい研究のシーズを探している研究者はもちろん、理系の学類生や地域の研究に興味のある読者には一読をおすすめする。

(共生システム理工学類 講師 吉田龍平)



◆産学官連携教員の紹介◆

地域創造支援センター産学官連携教員・弁理士 **横島 善子**

よこしま よしこ
横島 善子



産官民学連携推進に関するこのうち、主に、特許をはじめとした知的財産に係る業務に従事しております。具体的には、民間企業勤務等の経験もいかしながら、知的財産についての各種相談、知的財産の権利化手続きのサポート、特許出願契約や実施許諾契約等の契約締結業務、知的財産の尊重・活用等に関する啓蒙などの業務に携わっています。

工学部の化学系学科出身であることもあり、知的財産のうち一番経験があるのは特許についてですが、特許はもちろんそれ以外の知的財産についても含めて、国立大学法人として、そして地域の中核的な知の拠点として果たすべき役割を踏まえた上で、教育研究等により得られた知的財産・成果の適切な保護に努めるとともに、それらを活用して地域への貢献に結びつけていきたいと考えています。

また、昨年は東京オリンピック/パラリンピックのエンブレムに関する著作権について大きなニュースとなったりするなど知的財産(権)に対する意識の変化も感じつつある中、知的財産に関する知識とともに、知的財産の尊重・活用等についても幅広く発信していけたらと考えています。

どうぞよろしくお願いたします。

昨年10月に放映されたNHKのドキュメンタリー番組「「いるだけ」で何ができるんだろう?~大学生「仮設」で暮らした3ヶ月」を見ながら、プリティッシュ・ロックのプリテンダーズの名曲「I'll stand by you」を思い出していました。「夜が来て、寂しくなったとしても、あなたは一人ぼっちじゃない。私がそばにいるから」とクリッシー・ハインドはゆったりとしたバラードで歌いました。行政政策学類の鈴木典夫さんの指導のもと、本学の学生たちが試みている「いるだけ支援」もまた、依然として避難生活が続けられている仮設住宅に住み込んで、生活を営むことで、住民たちのそばにいる、というそれだけの取り組みです。特に何をするといいわけでもなく、一緒にラジオ体操をしたり、気が向けば草むしりをしたりする程度、住居が仮設住宅であることを除けば、ごく普通の大学生の暮らしと何ら変わることはありません。それでも、最初はややいぶかしんでいるような様子の住民の皆さんの、時の経過に伴ったゆるやかな変化が目を見えました。孫くらいの年齢の大学生に対して、きちんと大学に行っているのか心配したり、そうかと思うと、姿が見えないことに気をもんだり、時には昼食を振る舞ったり・・・しまいには、どちらが支援されているのかわからなくなってくるくらいです。

おそらく、確かに大学生たちも学んでいたのだと思います。時々訪問するだけではわからない様々な問題、多くの人が胸の奥にしまいこんでいる思い、まなざしの先に仄見えるやさやかな希望、そうしたものを、身をもって発見する時間を過ごしていたのでしょうか。それは、ある空間に身を委ねることしか見えてこないものを、視界の端に捉え、その運動を体感し、やがてしっかりと見据えることができるように

ただそこにいるだけで

なる、濃密な時間でもあったでしょう。「人間は創造しない。発見するのだ。新たな作品のための礎として自然界の諸法則を探求する人々は創造主とともに制作するのだ」とアントニオ・ガウディは語ったと記憶しています。無個性の建物が並んでいる仮設住宅に立ち込める濃密な運動、空間の中に満ちている生の躍動を大学生たちは経験したのだと思います。

先日「東北発☆未来塾」では3回にわたって「6年目のボランティア講座」が放映され、鈴木さんと本学のボランティア団体が育ててきたノウハウの一端が示されました。曰く、「支援に終わりなし。未来をみすえて組織を作れ!」「困っている人のニーズは聞き取るんじゃない! 感じ取れ」「エネルギーの90%を関係作りに注げ! その先に流れが見えてくる」などなど。番組に登場した石巻専修大学の学生さんたちが福島を訪れ、本学の学生たちと交流し、さらに「いるだけ支援」を数日間、実践してみる、その取り組みの中からこれまでの活動に不足していた部分に気づいていくという筋立てのもと、学生さんたちの目の輝きや振る舞い方に明らかに変化が生じていきました。「いるだけ支援」というやさやかな取り組みが、大きな輪となって広がることに注目していきたいと思います。

同時に、地域連携活動やボランティアに取り組んでいる皆さんには言わずもがなと思いますが、現実には、時に応じて、場所に依って、絶え間なく変化を続け、形を変えていきます。マニュアルどおりには行かない現実と向き合うために、理論知と実践知の噛み合わせは、6年目の私たちにとってますます重要性を帯びています。



行政政策学類長

くが かずみ
久我 和巳